

県立広島大学教員活動情報

所属学部等	地域連携センター		専攻
職氏名	助教	上水流 久彦	
専門分野	文化人類学	地域社会論	

1. 教育活動 (平成19年度)

(1)担当科目(学部)	文化人類学		
	(大学院)		
(2)教育関係 特記事項	担当科目は遠隔であったが、本学の要望により各キャンパスを移動して、授業を行った。		

2. 研究活動 (平成17～19年度)

(1)論文等	上水流久彦「本土化過程中的社區重建與当地傳統寺廟」、83-102頁、『臺灣文獻』56-2(台湾、台北)	平成17年6月
	上水流久彦「台湾の歴史の語り方」、45-56頁、『アジア・アフリカ言語文化研究』7	平成19年9月
	上水流久彦「台湾漢人の人間関係構築にみる『日本語』・植民地経験利用の視点から」、187-216頁、『戦後台湾における「日本」：植民地経験の連続・変貌・利用』風響社	平成17年7月
	上水流久彦「進む台湾の本土化と台湾の抱える袋小路」、210-213頁、『アジア遊学』81 勉誠出版社	平成19年10月
	上水流久彦、加藤博和、野原建一「中山間地域における第三セクターの経営戦略とその可能性」、『広島県立大学論集』10-1	平成18年9月
	上水流久彦「台湾の植民地支配にみる新聞の資料的価値に関する一試論」、177-210頁、崔吉城・原田環編『植民地の朝鮮と台湾』第一書房	平成19年6月
	上水流久彦「漢人社会におけるネットワーク論の有効性と限界・ベンチャー投資・ビジネスの調査過程から」、財団法人国際貿易投資研究所「東アジアのベンチャーキャピタルとベンチャービジネスの評価分析」報告書	平成19年3月
	上水流久彦「台湾の古蹟指定にみる歴史認識に関する一考察」、84-109頁、『アジア社会文化研究』8	平成19年3月
	上水流久彦「台湾の温泉における『和風』～日本植民地時代の遺物のその後」、16-24頁、『温泉研究』4	平成19年3月
	上水流久彦・中村八重「東アジアの政治的变化にみる越境・台湾の韓国華僑にとっての中華民国」、61-72頁、『広島県立大学論集』11-1	平成19年3月
	上水流久彦 Common-Surname Tong-ism in Contemporary Taiwanese, in Shima Mutsuhiko(ed) Status and Stratification Cultural Forms in East and Southeast Asia, Tohoku University pp.63-94	平成20年3月
(2)著書	上水流久彦等編訳『台湾外省人の現在・変容する国家とそのアイデンティティ』261頁 風響社 4894891077	平成20年3月
(3)学会発表等	上水流久彦「台湾植民地統治期の新聞・主として親族研究の視点から」、日本文化人類学会第40回研究大会(名古屋大学)	平成19年6月
	上水流久彦「台湾の植民地主義・台北市の古蹟指定をめぐる」、日本文化人類学会第39回研究大会(東京大学)	平成18年6月
	上水流久彦「台湾漢人の死の儀礼の変遷(1890年～1980年)・葬儀案内文を資料に、慶應義塾大学東アジア研究所プロジェクト「東アジアにおける宗教文化の再構築」第3回研究会(慶応大学)」	平成18年7月
	上水流久彦「台湾漢人社会にみる新聞広告の資料的価値」、日本文化人類学会第38回研究大会(北海道大学)	平成17年6月
	上水流久彦「トニズムとしての親族関係・台湾漢人社会を事例に」、東北大学21世紀COEプログラム「社会階層と不平等教育研究拠点 東アジア部門シンポジウム」(東北大学)	平成18年1月
(4)工業所有権等	上水流久彦「台湾の温泉における『和風』」、温泉学会第6回全国大会(十津川温泉)	平成18年3月
(5)外部資金採択状況	科学研究費補助金(代表) 2件 科学研究費補助金(分担) 3件 その他外部資金 7件	
(6)研究関係 特記事項	平成19年度は台湾と日本の関係に関する科研を行った。また本学の重点研究、地域課題解決研究として、1.「東アジアにおける広島県の食糧の脈路拡大に関する調査」(代表 132,800円)、2.「中山間地域における第三セクター経営とコミュニティビジネスの経営指標と成功要因の分析」(分担 代表野原建一 総額660,400円)、3.「住民自治組織の再構成と自己育成型地域づくり」(分担 代表前川俊清 総額1506,000円)、4.「新生庄原市におけるコミュニティの自立(ビジネスを背景とした生活基盤の確立)に関する研究」(分担 代表村田和賀代 総額2,001,000円)、平成17年度は本学の重点研究、地域課題解決研究として、「中山間地域における第三セクターとコミュニティビジネスの経営戦略とその可能性に関する研究」(代表 野原建一 分担 総額763,000円)を代表者、分担者として研究を行った。 現在、地域連携センターに所属するため、主に中山間地域に関する理解を深めるため、研究調査を行っているが、センター業務と関係するため、センター業務従事報告にその点は記した。 上水流久彦等編訳『台湾外省人の現在・変容する国家とそのアイデンティティ』については、朝日新聞や東方書店出版の『東方』等の書評欄で取り上げられ、評価を得ている。	

3. 地域貢献活動 (平成19年度)

(1)審議会等委員	しょうばら産学官連携推進機構委員 しょうばら産学官連携推進機構連携チーム 三次イノベーション会議委員 三次イノベーション会議ワーキンググループ 庄原市民会館自主事業実行委員会委員 庄原市民会館自主事業実行委員会監査	
(2)公開講座等	台湾友好ひろしまネットワーク講座「台湾の親日関係等について」 庄原市民公開講座 異文化理解	
(3)地域貢献 特記事項	台湾を専門としていることから、広島県の台湾人留学生、広島日華親善協会、広島中華総会(台湾系)、日華友好広島県議会議員連盟、広島台湾会(台湾からの引き揚げ者の会)、広島台湾人研究者などから構成される台湾友好ひろしまネットワークの事務局長として、台湾と広島との親善、交流を活性化し、サポートする活動を行っている。大使にあたる台湾の許代表を台湾に招聘し、講演会を開催し、本学会を会場に台湾に関する連続公開講座を企画・実施するなどを行った。また構成団体の個々の団体が台湾を訪問する場合にそのサポートも行っている。平成19年度は日華親善協会、日華友好広島県議会議員連盟等の訪問に関わった。	

4. 大学運営活動 (平成19年度)

(1)学内委員等	庄原地域連携センター運営委員会 地域連携センター運営スタッフ	地域連携センター報編集委員
(2)センター運営 業務内容	世羅町包括協定 庄原市、三原市、安芸高田市地域戦略協働プロジェクト 主に自治体へのシーズ紹介を中心に行った	
(3)大学運営 特記事項		

以上は、主要な活動について掲載しています。